

# 第2回バイオレゾナンス医学会全国大会 が東京都内で開催！

今後、歯科医療の可能性を大きく広げるものとして期待されていると日本歯科新聞に取上げられました。

2011年7月19日（火）掲載

## 金属撤去で「歯科医科連携」

### バイオレゾナンス医学会

波動をキーワードに、  
歯科と医科を統合した新  
しい考え方を実践するバ  
イオレゾナンス医学会  
(矢山利彦理事長)の第2  
回全国大会が10日に東京  
都内で開催された。

波動を特殊な装置で検査  
し、患者の状態に最適な  
医療を提供するという考  
え方のため、中には、歯  
科用金属の撤去によって全  
身の不定愁訴を治療する  
方法を採用することも多  
く、歯科と医科との連携  
が大前提となっている分

野として知られ、歯科医  
師の参加者も多い。  
バイオレゾナンス医学  
とは、矢山氏が開発した  
経絡エネルギー測定器  
「ゼローサーチ」を使っ  
て、人体のエネルギー的  
情報を生体共鳴（バイオ  
レゾナンス）によって得



バイオレゾナンス医学の社会的意義について述べる矢山利彦理事長

ようにする新しい方法論  
で、これによって歯科的  
問題が全身にさまざまな  
形で影響するのが明らか  
にされているという。  
千葉県でバイオレゾナ  
ンス医学に基づく内科、  
アレルギー科を開業する  
森正道氏(医師)がバイオ  
レゾナンスに関心を抱い  
たのは、多くの医療機関  
で「この病気は治りませ  
ん。一生、上手につきあっ  
ていきましょう」などと  
治癒しないことを前提と  
したアドバイス、治療介  
入がなされている実態に  
疑問を抱いたからだとい  
う。

薬、処置を最適化するこ  
とで、本当の治療をゴー  
ルとした医療を実践する  
道が開けたという。  
大会では、医師、歯科医  
師の講演だけでなく、デ  
モが多数組まれ、これま  
であまり知られてこなか  
ったバイオレゾナンス医  
学の多彩な側面を垣間見  
ることができた。  
杉本叡氏(歯科医師)に  
よると、歯質、歯髄、歯槽  
骨の感染や生体為害性の  
ある歯科材料によって難  
治性の症状が現れている  
現状があるとのことだ。  
特に、インプラントと金  
属性修復物の組み合わせ  
には相性の悪い患者が多  
く、臨床でこれらの感染  
病巣や異物を取り除くこ  
とが中心になっていると

歯科においては、多く  
の金属アレルギー治療の  
現場が歯科、歯科の連携  
不備によってさまざまな  
困難に直面していること  
が知られている。一つの  
疾患に対して両者が診  
断、処置で連携する方法  
を、あえて「歯科医科連  
携」と定義付けているバ  
イオレゾナンス医学は、  
今後、歯科医療の可能性  
を大きく広げるものとし  
て期待されている。

